

Ⅲ 学 校 給 食

1. 学校給食の推進

【重点方針】

(1) 栄養の改善及び健康の増進

学校給食を通して、児童生徒の生涯を通じた健康づくりの基礎を培い、正しい生活習慣の形成を図り、心身ともに健康な人間の育成を目指す重要な教育活動として学校給食を実施します。

(2) 衛生管理の徹底

国の「学校給食衛生管理基準」に基づく衛生管理を徹底し、安全で安心な学校給食を提供します。

(3) 『食育』の推進

① 「食育基本法」「学校給食法」に基づき、学校給食を食に関する指導の生きた教材として活用します。

② ふるさとの「もの」を活用することによりふるさとへの理解や誇りを育むため、学校給食食器に漆器の導入を目指します。

(4) 地場産物の活用

作り手の顔が見える食の提供、地元産品の消費拡大を目的に可能な限り地産地消に努めます。また、地元食材の活用を積極的に推進することで市民の食に対する関心を高めます。

(5) 学校給食センターの運営

学校給食センターを安定的に運営します。

【推進施策】

(1) 学校給食の内容の充実を目指して

- ① 魅力ある献立の工夫
- ② 食物アレルギーへの対応

(2) 学校給食における衛生管理の徹底及び食中毒の発生防止

- ① 調理等従事者の衛生管理の意識向上及び徹底

(3) 『食育』の推進

① 食に関する指導の充実を目指して

- ・ 湯沢市食育推進計画を踏まえ、「栄養教諭等の教科等における食に関する指導要請」に基づいた組織的かつ計画的な食育の推進及び栄養教諭・学校栄養職員の授業への参画
- ・ 学校給食試食会等を活用した保護者との連携や学校給食に関する情報の発信

- ② 学校給食食器への漆器の導入を目指して
 - ・ 給食食器として、川連漆器食器を使用することを目指し、秋田県漆器工業協同組合と協力し使用可能な食器の調整や、給食センターの体制づくりを推進

(4) 地場産物の活用を目指して

- ① 地場産物食材の積極使用による安全・安心な給食の保持と消費の促進
- ② 郷土料理を取り入れた献立の実施

(5) 学校給食センターの運営

- ① 施設設備等の適正な管理
- ② 学校給食費未納の早期解消
- ③ 令和5年度の調理及び配送業務の民間委託化を目指す

2. 給食施設設置状況

○ 学校給食センター

名称	位置	構造	敷地面積	建物延面積	建築年度
湯沢市学校給食センター	湯沢市岩崎字狐崎 8-1	鉄骨一部2階建	14,302 m ²	2,741 m ²	H29

・給食センター給食人員(R4.5.1現在)

単位：人

小学校	給食人員			中学校	給食人員		
	児童	教職員	計		生徒	教職員	計
湯沢東	466	40	506	湯沢北	239	24	264
湯沢西	467	49	516	山田	58	15	73
山田	91	18	109	湯沢南	264	28	292
稲川	248	27	275	稲川	137	21	158
雄勝	154	21	175	雄勝	116	17	133
皆瀬	63	14	77	皆瀬	41	14	55
計	1489	169	1659	計	855	119	975
児童生徒計		2,344		教職員計		288	

	職員
湯沢市学校給食センター	53

		児童生徒	教職員	計
秋田県立稲川支援学校	小学部	25	59	134
	中・高等部	50		

児童生徒	教職員	給食センター	稲川支援学校	合計
2,344	288	53	134	2,821

・給食費

区分	1食当たり給食費	給食費月額	給食費徴収月数
小学校	280円	5,600円	9ヶ月 (最初の月5月)
中学校	320円	6,400円	9ヶ月 (最初の月5月)

・1週間の給食形態

区分	米飯	パン	麺
回数	4回(月・火・木・金)	0.5回(水)	0.5回(水)

3. 学校給食センター運営委員名簿

湯沢市学校給食センター運営委員会

任期 R4.4.1～R5.3.31

No.	氏名	所属	No.	氏名	所属
1	佐藤 寿和	湯沢南中学校 PTA会長	7	沓澤 智子	山田小学校 養護教諭
2	小野寺 和也	稲川小学校 PTA会長	8	大内 由佳子	稲川中学校 養護教諭
3	高橋 健	雄勝小学校 PTA会長	9	南園 智人	湯沢保健所 所長
4	中山 敏夫	皆瀬中学校 PTA会長	10	高橋 章	学校医代表 (学識経験者)
5	佐々木 誠	皆瀬小学校 校長	11	近 歩 弥	学校薬剤師代表 (学識経験者)
6	高橋 俊英	雄勝中学校 校長	12	佐々木 裕子	管理栄養士 (学識経験者)